

2012（平成24）年度前期 DUO リーグ会議議事録②

【日 時】 2012（平成24）年7月15日（日） 17：00～19：00

【場 所】 筑波大学附属高校会議室

【出 席】（代表者名。下線は遅刻）

都小石川（長山）、昭和一（永井）、三菱養和（杉尾）、京華（小金丸）、都向丘（北洞）、筑波大附（中塚）、学習院（玉生）、豊南（林）、本郷（都丸）、城西（嶋野）、豊島学院（北爪）、郁文館（志村）、駒込学園（宮坂）、巣鴨（山中）、立教池袋（橋本）、獨協（神宮司）、都豊島（丹羽）、淑徳巣鴨（梶）、都竹早（蓑田）、日大豊山（亀井）、都文京（梶山）、都足立（安藤）、都江北（蓑輪）、足立学園（伊藤）、中大高（加藤）、文京区中学生選抜（武藤）、FC西巣鴨03（岸弘）

【欠 席】 都荒川商 → 7月26日に筑波大附にて注意と指導

【オブザーバー：選手】

井上（都小石川）、鎌田・金山・鈴木・神野・谷中（筑波大附）

【オブザーバー：一般】

栗原（東京リゾ&スポ）、佐藤（リサイクルプロジェクト）、稲垣、三ツ矢（事務局次長）、

【議事録作成】 三ツ矢（事務局）&中塚確認・修正

【議 題】

I. チェアマンより

- 1) 全国～関東～東京都ユースサッカーリーグ現状と今後
- 2) DUO リーグ将来構想委員会の経過
- 3) スケジュール問題（7/14の試合実施を巡って）
- 4) DUO リーグの役割分担

II. 2012年度前期（第33回）DUOリーグ・その後（報告・審議）

1. 経過・結果報告
2. 各賞選出

III. 2012年度後期（第33回）DUOリーグについて

IV. 各部門より

1. 事業部門（玉生事業部長）
2. 管理部門（梶山管理部長）
3. 企画部門（丸山企画部長）

V. その他

<DUO リーグ会議ダイジェスト（決定事項を中心に。詳細は下記参照。）>

◆各リーグ会計資料について、訂正版を7月中に再度提出

◆1部チャンピオンシップの結果

1位：郁文館 A

2位：京華

1部リーグ MVP：河田直也

1部リーグ得点王 DU：榎本将人（郁文館 A）13点 UO：兼子朋也（筑波大附 A）8点

◆2部チャンピオンシップの結果

1位：筑波大附 B

2位：日大豊山 A

3位：都江北 B

2部リーグ MVP：後日報告 → 鎌田丈博（筑波大附 B）に決定（7/21 付で ML にて連絡）

2部リーグ得点王 D：安田邑太（FC 西巣鴨 03）5 点、宮武雄大（都江北 B）5 点

U：早田涼（日大豊山 A）6 点 O：高橋リオ（豊南）5 点

◆優秀審判賞

中原綾介（巣鴨）

◆特別賞

なし

◆1部リーグの日程会議について

日時：8月12日(日) 18:00～

場所：駒込高校

◆1部リーグの日程会議について

日時：8月16日(木) 18:00～

場所：駒込高校

◆プログラム原稿締め切り 8月21日(火)

◆講習会について

- ・ストレッチ、テーピング講習会は12月開催予定
- ・栄養講習会は2月に開催予定
- ・靴磨き習会は12月と3月に開催予定

◆第1回将来構想委員会について

- ・謝礼について DUO リーグの業務で動いてもらった場合、半日 3000 円、1 日 5000 円を負担
- ・DUO リーグ以外からの派遣については、2000 円の交通費を支給
- ・遠隔地(関東エリアの外)を異動する場合、会議で承認されれば DUO リーグが実費を負担
- ・「各クラブの現状を全クラブが同じ“温度”で認識」「DUO リーグの歴史と現像を全クラブが同じ“温度”で認識」「DUO リーグの周辺状況を、全クラブが同じ“温度”で認識」

◆第2回将来構想委員会について

- ・DUO リーグの収支構造の見直しについてシミュレーションをし、選手登録料は現状の 800 円から 500 円に引き下げても、リーグ運営に支障がないとの結果になった。
- ・DUO リーガー(高校生)への情報配信ルートの確立について、まずはホームページを魅力ある形にしていく取り組みから始めることとなった。

◆1 シーズン制について支持する声が多いため、1 シーズン制のシミュレーションを作成し、将来構想委員会で話を進めていくこととなった。

◆次期チェアマンについて、選任は理事会に一任する形となった。

議題 I. チェアマンより

中塚：「1）全国～関東～東京都のユースサッカーリーグー現状と今後」及び「2）DUO リーグ将来構想委員会の経過」、「4）DUO リーグの役割分担」については、また後ほどまとめてお話します。

3) スケジュール問題 (7/14 の試合実施を巡って)

中塚：2012 年度前期リーグの日程調整会議の時点で、「7月13日をリーグ戦の試合の締め切りにして良いか」という確認はしていました。週末ごとの雨もあり、リーグ戦期間中のスケジュール調整も大変でした。7月9日時点での未消化試合及び7月13日がリーグ戦最終日であるという確認のメールが、資料の5、6ページとなっております。

しかしその後、7月14日にリーグ戦を組んだという連絡があり、その連絡を受けて玉生事業部長と電話でやりとりし、玉生事業部長から7月14日の試合の実施についての連絡をしていただいたのが

6 ページの半分より下の内容になります。7～9 ページについては、玉生事業部長からの連絡を受けて、7月14日の試合の実施について、意見を述べて頂いた方々の内容です。そして最終的に、特例として認める連絡が皆さん届いたという流れになります。

玉生：これまでの流れは中塚チェアマンが説明された通りです。今回のようなことは前例もありますが、7月14日に試合を行うことは、本日15日のチャンピオンシップや会議準備等に影響が出たり、7月13日締め切りでマッチメイクしていたチームもあつたりするので、色々悩みました。ただ、プレイヤーズファーストでやらせてあげたいと気持ちがあり、認める方向で行きたいと思っていました。ただし、前期リーグ終了直前に7月14日の実施連絡がされたのは良くなかったと思います。早めに相談をするべき事項であると思います。リーグ戦最終日を過ぎてからの試合を認めることが当たり前となってしまうのは良くないので、あくまでも特例として考えて頂きたい。同じようなことが、以前に地区トップリーグでもあったが、厳しく判断し、未消化試合としました。もちろん DUO リーグでも許されることではないですが、様々な事情があるので早いうちから連絡を取り合って、決定できれば良かった。今回、1 試合未消化が出てしまいましたが、この試合ももしかしたら7月14日に行うことができる可能性もありました。そのような面からすると、不公平になってしまった。

中塚：確か去年だったと思うのですが、京華関係の試合でリーグ戦最終日より後に1試合行うというのはあったと思います。その時は事前に連絡をもらい、チャンピオンシップにも関係のない試合ということで、認めたこともありました。何かこの件に関して補足等がありますか。

蓑輪：7月14日に試合を行うことに至った経緯は、皆様にご連絡した通りです。資料の8ページにも書いてあります。

中塚：このような時は事業部長とチェアマンに連絡するようにお願いします。本当は当該リーグの責任者に調整をしていただきたいのですが。今回については前例にはしないという事にします。

議題Ⅱ．2012年度前期（第33回）DUOリーグ・その後（報告・審議）

1. 経過・結果報告

1) 1部リーグ

○DU リーグ

蓑田：7月12日で全ての日程を終了することができました。課題としては、会場運営数のバランスです。あるチームだけに会場運営が偏るよることがないように、今後は気をつけたいです。

○UO リーグ

永井：日程決め会議の時点で、未定の試合は2試合ありましたが、5月以降、天候や都大会の関係で日程表通りには進みませんでした。グラウンド保有校が複数あり、試合をすべて終えることができました。

2) 2部リーグ

○2部D リーグ

永井：日程決め会議の時点で、未定の試合は2試合ありましたが、グラウンドの確保ができたこともあり、日程を組むことができました。

○2部U リーグ

嶋野：日程は比較的スムーズに進めることができました。しかし、週末ごとの雨やそれに対する対応力については、どのグラウンドも芝ではないので難しかった。中止となった試合をもう1度日程を組み直すことは、日程会議の時から難しいと感じた。

○2部0リーグ

宮坂(清水代理)：グラウンドを持っているチームが少なく、グラウンドを持っているチームに負担がかかってしまった。「現在のリーグ戦運営を見直す必要がある」という問題も指摘されています。グラウンド確保が思うようにいかないチームこそ、リーグ戦の実施運営に積極的に関わっていくことが大事であると感じました。

中塚：以上2012年度前期リーグを各責任者に報告していただきました。会計資料についてですが、様々なところで細かい訂正がいくつもあります。

伊藤：経理部では会計資料をもとに、会場運営費や審判費等の算出を行うので、訂正があるリーグは再提出をお願いしたいのですが。

中塚：各リーグの会計担当の人は、もう1度確認し、7月中に再提出してください。

2) チャンピオンシップ

中塚：本日のチャンピオンシップの結果です。2部リーグチャンピオンシップは3チームの三つ巴戦で、それぞれ40分1本で、1部チャンピオンシップは40分ハーフで行いました。

☆7月15日(日) <筑波大附属高校G(主催：筑波大附)>

2部チャンピオンシップ第1戦 筑波大附B 1-1 (0-0, 1-1) PK6-5 日大豊山A

(9:00/ 菱輪周史：都江北顧問：5・5/ 清水衛、清水直輝(都江北2年))

得点者…筑波大附B：鎌田丈博

日大豊山A：遊佐幸司

2部チャンピオンシップ第2戦 都江北B 0-0 (0-0, 0-0) PK5-4 筑波大附B

(10:05/ 亀井聡：日大豊山顧問：5・4/ 鶴田万葉、黒川海人(日大豊山1年))

2部チャンピオンシップ第3戦 日大豊山A 0-0 (0-0, 0-0) PK5-3 都江北B

(11:10/ 石橋裕貴：筑波大附OB：5・4/ 林紘之介、黒川海人(日大豊山1年))

1部チャンピオンシップ 郁文館A 3-0 (3-0, 0-0) 京華

(12:15/ 嶋野雅春：城西教諭：?・?/ 林紘之介、佐藤悠介(筑波大附3年))

得点者…郁文館A：河田拓也、林卓人、オウンゴール

→2部優勝…筑波大附B 2位…日大豊山A 3位…都江北B

1部優勝…郁文館A 2位…京華

1. 各賞選出

○1部 MVP

中塚：先ほど実施したアウォーズで既に決定し、表彰しました。

→河田直也君(郁文館A)に決定

○1部得点王

中塚：1部リーグの得点王についても、表彰済みです。

→1部 DU リーグ：榎本将人（郁文館 A）13点
1部 UO リーグ：兼子朋也（筑波大附 A）8点

○1部得点王

中塚：また、2部リーグの得点王についても、表彰済みです。

→2部 D リーグ：安田邑太（FC 西巣鴨 03）5点、宮武雄大（都江北 B）5点
2部 U リーグ：早田涼（日大豊山 A）6点
2部 O リーグ：高橋リオ（豊南）5点

○2部 MVP

中塚：2部 MVP については、優勝チームからとは限らないですが、どうしますか。それぞれのリーグで推薦などはありますか。

玉生：やはり優勝した筑波大附 B から選んでいただくので良いのではないのでしょうか。

中塚：わかりました。ですが、選出が難しいので、1度持ち帰らせてください。後日報告いたします。

→2部 MVP については、後日報告 → 鎌田文博（筑波大附 B）に決定（7/21 付で ML にて連絡）

○優秀審判賞

中塚：優秀審判賞についてです。

嶋野：推薦などあれば、お願いします。

中塚：巣鴨高校の中原君はどうでしょうか。

山中：中原君についてです。初めは「審判をやりなさい」と言ってやらせましたが、前向きに取り組んでおります。試合に向けての準備もしっかりしています。評価はまちまちのところはありますが、審判に対する姿勢を評価していただければ、優秀審判賞の候補に入れても良いと思います。

→中原綾介君（巣鴨 2 年）に決定

○特別賞

中塚：特別賞はいかがでしょうか。特別なことがなければなしです。

→特別賞はなしに決定

議題Ⅲ．2012 年度後期（第 33 回）DUO リーグについて

都丸：本郷高校ですが、2012 年度後期から 2 部リーグに 1 チーム参加しようと思います。

中塚：チーム名はどのようにしますか。以前は本郷⊙等としていましたが。

都丸：何もつけずに本郷で良いかと思いますが。

中塚：事務局としてはどうですか。

三ツ矢：本郷高校はトップチームがTリーグに参加されていると思います。足立学園もトップチームがTリーグに参加されており、DUO1部リーグには足立学園Bとして参加されています。本郷高校もTリーグに参加しているチームと区別できるような形でお願いします。

都丸：分かりました。確認してご連絡いたします。

中塚：レギュレーションの確認です。第34回DUOリーグ実施要綱となっている資料を見てください。ポイントは、「大会規定」欄において、2012年度前期の結果をもとに、1部をプレミアリーグとプリンスリーグに分けます。プリンスリーグ下位2チームと、2部上位2チームは自動入れ替えを原則とします。そして後期プレミアリーグ優勝チームは、2013年度地区トップリーグへの昇格権を有することになります。1部構成チーム、2部構成チームについて、事業部長からお願いします。

玉生：後期参加チーム数、特に2部の参加チーム数は、会議終了後調査を行い、それをもとにリーグ編成を行います。7月中に皆さんの方からご連絡を受けて、その上でリーグ編成をします。1部リーグの編成は、今回の結果により確定しているので、8月の頭で皆さんが集まることができる日を探し、日程編成会議の日を決め、2部リーグはそれを受けて日程編成会議の日を決めたいと思います。

→ 1部リーグ日程編成会議

日時：8月12日(日) 18:00～

場所：駒込高校

→ 2部リーグ日程編成会議

日時：8月16日(木) 18:00～

場所：駒込高校

梶：プログラム原稿の締め切りについてですが、8月15日にしたいのですが。

中塚：選手権の関係もありますので、選手権が終わったあたりに締め切りを設定できないでしょうか。

梶：では8月21日でどうでしょうか。もし締切日に変更等があれば、ご連絡いたします。

→ プログラム原稿締め切り 8月21日(火)

議題IV. 各部門より

1. 事業部門（玉生事業部長）

1) 競技部（玉生事業部長）

玉生：、先ほど各リーグ責任者の方から報告がありましたので、それで十分かと思いますが。

2) 審判部（◎城西・立教池袋・日大豊山）

嶋野：2部のチャンピオンシップは、試合のないチームが審判を行うという形で実施しました。もし3日間別会場で行うのであれば、他の形を考えていこうと思っておりました。1部チャンピオンシッ

プの審判については、玉生事業部長にお任せをしてしまったところがあったので、審判部としてもっと自覚を持って取り組めたらと思いました。1部のチャンピオンシップの審判は、チェアマンとも話をしましたが、レフェリーカレッジへの打診や、有資格者でやる気のあるものに打診をするなども考えておりました。懸念としては、やる気がある人がやるということについて、その人だけに負担がかかってしまうことです。様々なところで仕事を分け合って取り組んでいければと思います。また、3月に審判講習会を行いました。京華高校の体育館で実施し、小金丸先生その他の方々にご協力いただきました。ありがとうございました。

3) 技術部 (◎都小石川・豊島学院・都竹早)

長山：本日、DUO リーグ指導者講習会を実施いたしました。今年度は「生徒への還元率」というところを考えました。先生方が勉強されて、それを各学校に持ち帰ってトレーニングに活かしてもらうことにより、生徒への還元率が高くなるのではないかと思います。私を含めて6名の先生方の指導実践をしました。先生方には15分程度の練習を考え、実施していただきました。その後、指導実践についての5分程度のディスカッションをして、次の先生の指導実践に移っていくような流れで行いました。

本日は、指導実践を行った先生も含め16名の先生方と、京華高校の20名程度の生徒に参加してもらい、合計35、6名の方々に指導者講習会を実施しました。

小金丸：指導者も、恥ずかしがったりやりにくかったりしますが、得るものもあるので、このような企画を継続的に実施していくことができるようにしたいと思います。話は広がりますが、高体連の役員の中でも、指導者講習会に2地区の参加がないとご指摘を受けました。2地区の中でもこのような取り組みを行っていることを発信していくことができればと思います。

宮坂：長山先生と講習会についての相談をしていてでた話です。筑波大附や都江北などの広いグラウンドを持つチームもありますが、2地区にはグラウンドが狭いチームやないチームもあります。そういうところで講習会を実施して、「こういう環境でサッカーをやっているのか」とか、「狭いなりにどのような練習をしているのか」というようなことを発信するのもDUO リーグならではないかと思いました。本日私が行った指導実践は、グラウンドが狭い駒込高校でもできる取組でした。

長山：ありがとうございました。また本日、岸さんから「参加はできないけどこのような課題もある」と宿題をいただくこともありました。このような形で、次回以降につながっていけばと思います。

2. 管理部門 (梶山事業部長)

1) 経理部 (◎足立学園・豊南)

伊藤：クラブ加盟費や、チーム参加費、個人登録費がまだ支払われていないところがあります。支払いをお願いします。

2) 広報部 (◎淑徳巣鴨・都向丘)

梶：先ほど話しましたが、プログラム原稿は8月21日(火)の締め切りをお願いします。

中塚：2012年度後期リーグのプログラムについてですが、企画に関するアイデアはありますか。

梶：まだ話ができていないです。

中塚：確か2週間ほど前のサッカーダイジェストに、学習院OBの瀬田元吾さんの話が載っていました。

た。彼がドイツへ行って7, 8年経ちますが、フォルトナ・デュッセルドルフの日本人向けデスクを立ち上げて、現地で様々なマネジメントをやっています。また、U-12の全国大会であるダノンカップで優勝したチームの指導者が、京華高校のOBです。このようにDUOリーグのOBを紹介できるコーナーがあっても良いのではないかと思います。

3) 規律部 (◎京華・駒込)

小金丸：2012年度前期リーグにおいて退場者が出ました。退場者が出た場合は、すぐに私の方に報告する形にしていますが、そのことが浸透しておらず、中塚先生からメーリングリストで連絡いただくことがありました。退場者が出た場合には、規律部の小金丸までご連絡をお願いします。

3. 企画部門 (中塚(丸山企画部長代理))

中塚：企画部門ですが、丸山企画部長が、6月中旬くらいから体調を崩され入院しています。昨日退院されたようですが、しばらく現場に復帰できないようです。2012年度後期は、井上さんに引きついでもらうことにします。

1) 医・科学活動推進部 (◎郁文館・養和・本郷)

志村：12月のイベントデーに東京リゾート&スポーツと調整して、ストレッチとテーピング講習会を開催する予定です。2月に栄養講習会を実施いたします。前は選手のみでしたが、今回は保護者も参加していただく形で進めていきたいと思っております。

2) リサイクルプロジェクト&地域活動推進部

神宮司：2012年度の初めの段階で、イベントデーに行く予定でしたが、7月のイベントデーでは、靴磨き講習会が開催できませんでした。土谷さんとも相談しておりますが、靴磨き講習会を12月と3月で実施する方向で動いております。

中塚：気をつけてほしいのは、テーピング講習会などの他の事業との関係です。同時期に重複しないよう、しっかり調整してください。

神宮司：地域活動推進部に関してですが、文京区については特に活動はありませんでした。

山中：豊島区も特にありません。

蓑輪：足立区も特にありません。

中塚：1つのトピックとしては、2地区の高体連の大会を文京区の小石川運動場でできるようになったことです。蓑田さんの活躍だと思います。

議題V. その他

1. 全国～関東～東京都ユースサッカーリーグ現状と今後

玉生：今年度の地区トップリーグの途中経過と、順位表、星取表をプリントにしました。2地区から参加しているのは学習院です。現在22チームで構成され、上位3チームがT3リーグに昇格できます。来年度からBチームも地区トップリーグに参加できることが決まっています。

また、裏面の資料は私が個人的に作成した資料です。地区トップリーグを8×3リーグの構成で実施しようと動いています。その理由としては、地区リーグが8地区に分かれているが、地区トップ

リーグのところでは昇格できるチーム数が急激に減少します。地区リーグから T1 リーグまでがピラミッド型として存在した方がよいとするならば、地区トップリーグを資料の点線のように広げていき、T3 リーグも広げていく形がよいかと、個人的に思っているところです。そのために地区トップリーグを段階的に広げていく形をとって、T3 リーグに刺激を与えていくようにしたいです。T3 リーグは現在 16 チームで編成されていますが、今度の T リーグの運営委員会で編成チーム数の話合いがされるようです。この流れで行くと、T3 リーグを 20 チーム編成にするのが自然の流れであるし、徐々にピラミッドの形になっていくと思います。

中塚：いわゆるオフィシャルリーグとされているのは T3 リーグまでですね。

玉生：そうです。東京都サッカー協会が関わっているのは T3 リーグまでです。但し補助金を受けるにあたっての日本サッカー協会へ報告は、地区トップリーグや地区リーグの参加チーム数も報告されています。地区リーグの予算書や決算書も T3 リーグの担当者に渡し、それも含めて日本サッカー協会に報告し、補助金を受けています。ただし地区リーグなどにはお金は回ってきていないです。

2. 将来構想委員会について

中塚：DUO リーグ将来構想委員会と称して、DUO リーグ会議とは別に会議を開催しました。現在までに2回開催し、1回目は3月7日、2回目は6月7日に会議を開きました。

1回目の会議では、「お金」と「組織」を巡る問題について取り上げました。結論としては、謝礼について DUO リーグの業務で動いてもらった場合、半日 3000 円、1日 5000 円を DUO リーグで負担することになりました。対象となる業務は講習会等の講師、審判講習会等の運営、DUO リーグを代表する会議への出席等幅広くとらえることとします。DUO リーグ以外からの派遣については、2000 円の交通費を加えて負担することとします。また、DUO リーグの業務で遠隔地(関東エリアの外)を移動する場合、会議で承認されれば DUO リーグが実費を負担することになりました。

この形で既に動いており、昨年度から支出されています。本日の指導者講習会の運営で関わってくださった方々は、申請をしてください。議論の経緯としては、資料の10ページから12ページにある通りです。1回目の会議を経て、2013年度には良い意味でリニューアルできるよう今後も議論を継続していきます。議論の前提として、各クラブの現状を全クラブが同じ“温度”で認識すること、DUO リーグの歴史と現像を全クラブが同じ“温度”で認識すること、DUO リーグの周辺状況を、全クラブが同じ“温度”で認識することです。

1回目の会議を踏まえて6月7日に2回目の会議が開かれました。そこで話し合われた内容として、2012年度前期 DUO リーグから見えた、顧問の異動に伴う問題があります。その他にも審判問題、日程問題もありました。サッカーのリーグ戦として、シーズンをどのようにとらえていくかをもう1度考えてみようと思います。財務の問題や、リサイクルプロジェクトやチャリティサッカー、講習会などにどのように取り組んでいくのか、この様な事について話し合われました。

将来構想委員会は意志決定の場ではありません。具体的には次のことを進めていきます。1つ目は DUO リーグの収支構造の現状再確認と見直しです。「どこに無理や無駄があるのか」や、「どこを節約しすぎているのか」について検討し、経年変化を追ったうえで、どのあたりから問題が大きくなり始めたのか、今後どのようにすればよいのかを検討する材料を用意していきます。

2つ目は DUO リーガー(高校生)への情報配信ルートの確立です。現状では DUO リーグの情報は、DUO クラブ(各学校)の代表者(指導者)を経由して選手に伝わる形です。代表者を通すことで、代表者のニーズが反映され、DUO リーガーの考とのずれが生じているのではないかと、DUO リーガーに直接アプローチできる方法がないかということで、事務局と本多さんに検討をお願いしました。

3つ目は1シーズン制に移行した場合の可能性と課題の洗い出しです。

1) DUO リーグの収支構造の現状再確認と見直し

伊藤：「収入の部」、「支出の部」と記載されている資料をご覧ください。平成 23 年度の決算書をもとに作成した、平成 24 年度の決算書のシミュレーションです。参加チーム数や DUO リーガーの人数等につきましては、23 年度のデータをそのまま使用しました。具体的に変えてみたのは、収入の部の個人登録費です。現在では 1 人当たり 800 円納めてもらっていますが、500 円に変更しております。リサイクルプロジェクトからの収入は 0 円となっておりますが、例年であればいくらか収入はあると思います。また、審判講習会会費については、少なく見積もり 50000 円としています。支出の部についてですが、リサイクルプロジェクトについては多めに見積もり 150000 円としました。シミュレーションの結果、向こう 1 年間で 112000 円程度の繰越金になると思います。1 人当たりの登録料を 500 円にしても問題ないと思います。

中塚：補足ですが、支出の部の「TFA フットサル委員会」というのは、2011 年度に発行した、「東京都における U-18 フットサル大会の 10 周年記念誌」に DUO リーグが広告を出した広告費です。

丹羽：お金を安くする努力は非常にありがたいです。今回はこのくらいだと思いますが、まだ高いと思います。確かりバーサイドリーグでは、1 シーズン加盟するのに 1 チーム 10000 円程度だったと思います。ですが DUO リーグでは 3 万円程度かかります。都立高校の生徒は金銭の面ではシビアです。この平成 24 年度の決裁書シミュレーションを見た時に、まず目につくのがプログラム代です。ここで 60 万円程度かかっています。ここを削ることができれば更に安くすることができるかと思えます。変な話ですがリーグを行うだけなら、事務局経費も含めて 80 万円から 90 万円あればできてしまうかもしれません。日程表やメンバー表は必要だと思いますが、これらもインターネット上で掲載し、全ての学校が見られるようすればよいのではないかという意見も聞きます。逆に事務局費をもっと上げてよいのではないかと思います。

中塚：今回 500 円と試算してもらったのは、ワンコインでなにができるかというところにこだわろうと考えたからです。その部分は「DUO リーガー(高校生)への情報配信ルートの確立」につながってくると思えます。DUO リーガーがワンコインで登録すれば、どのようなことができるようになるのかということです。事務局からお願いします。

2) DUO リーガー(高校生)への情報配信ルートの確立について

三ツ矢：DUO リーガーに直接情報が届く方法がないかということで、経緯としては中塚先生がお話したとおりです。このことを本多さんに相談したところ、3 つの提案がありました。1 つ目は「サイトに情報補掲載する」ことです。DUO リーグのホームページの更新方法と同じように更新し、作成費は 5 万円、ブログ形式をとります。具体的な例として、「芦屋市体育協会」のホームページのお知らせ欄を資料として示しました。

この提案を聞いて、DUO リーグのホームページにも「お知らせ」欄があることに気がつきました。私も岸事務局長も使用したことがなかったのですが、ここを活用してみると資料のようになります。本多さんからは、ホームページについては今ある機能を十分に使い、その上で何か問題があれば相談する形で進めていくのがよいのではということでした。

2 つ目の提案としては、メールマガジンですが、有料月額 2000 円程度で、広告が入らないような形で配信できます。

3 つ目の案としては試験的な形として Facebook の活用も考えられるということです。

以上のことを岸事務局長に相談したところ、ホームページにはどれくらいの人がみに来ているのか、情報発信の主体者は誰なのか、どのような情報をそのくらいの頻度で発信するのかということを確認していかないといけないという返事をいただきました。メルマガにも月に 2000 円かけるのはど

うなのかと言うところもあります。

嶋野：まずパソコンのホームページをどのくらいの生徒が見ているのかというところが本当に大切になってくると思います。ホームページを見ている生徒が多いのであれば、ホームページを使って情報を発信していく意味があると思います。情報発信のツールを増やすことは構わないが、そもそも今あるものがどのくらい使われているのかという検証なしでは、新しいところに踏み込むことはできないでしょう。また、誰が情報発信の主体者になるのかというところも重要なポイントで、例えばメーリングリストに流れている情報をホームページに掲載する際、情報の集計にもかなりの労力がいると思います。

また、初めにチェアマンが言っていたクラブ代表者のフィルターがかかっているところの壁をどのように解決していくのかというところは、事務局だけの問題ではないと思います。

ホームページのトップページの写真も変わっていないと思います。ここからも「変わっていないんだな」という印象を受けます。まずは高校生たちが食いつくような工夫をホームページにしていく必要があると思います。

梶山：メールマガジンをつくって何の情報を配信するのでしょうか。毎月 2000 円も掛けて、そんなに配信する情報があるのでしょうか。まずはホームページについての取組をしたらよいと思います。私のみたところ、生徒はホームページを結構見ていると思います。なので、メールマガジンには賛成できません。

中塚：せっかく高校生がいるので、聞いてみましょう。

鎌田：ホームページは結構見えています。1 番見るのは試合結果です。自分達の間から行くと、ホームページはもっとこまめに更新してほしいですが、結果が出るのが 1 週間後だったりして、「もっと早く更新できないのかな」と思います。更新されてなくてがっかりする事もあります。

井上：僕も試合結果や得点ランキング等しか見ていないです。

鎌田：ホームページを充実するのであれば、メールマガジンは必要ないと思います。取り組むのであれば、まずはきちんと 1 つのものに力を入れてほしいと思います。

井上：メールマガジンは特に必要ないと思いますし、ホームページの内容を魅力的にしなければいけないと思います。

中塚：どういう記事があったらおもしろいですか。

井上：さっき話に出ていた DUO リーガーの OB・OG のお話は興味深いです。

亀井：ホームページを更新していくことは簡単ですか。管理や更新をするのはどなたですか。

中塚：全体の骨組みは株式会社シックスの本多さんにつくってもらいました。日々の試合結果の更新は各リーグの記録・集計担当が行っています。その他足りないところは事務局が補っています。ただしトップページのつくりに関しては、こちらから本多さんに依頼をしないと何も変わらないです。

梶山：このようなところはこちらでは変更できないのですか。

三ツ矢：できません。この他にも、こちらで変更ができないものもいくつかあります。

岸(弘)：お知らせ欄があることは初めて聞いたので、まずはここを活用してはどうかと思います。

中塚：できる範囲で、我々が持っているコンテンツをホームページにあげていきましょう。例えば南三陸町の話など。これはFC西巣鴨03のホームページに載っていますか。

岸(弘)：はい。ブログ形式ですが。

中塚：例えばそれをリンクさせていくことも1つの手であると思います。これぐらいのことはすぐできるとお思いますので、お金がかからない範囲でもう少しやっつけていこうと思います。それでも成果が見られないようであれば、ホームページそのものの在り方を根底から見直すことも必要でしょう。場合によっては各クラブへのリサーチを行うかも知れませんが、ご協力お願いします。その他に全体を通して何かありますか。

3) 1シーズン制について

嶋野：前期1部リーグのチャンピオンシップで優勝したチームについてですが、どうしても後期に向けてのリーグ編成決め程度の価値しかないと思います。前期で優勝したチームについてもう少しの+αがあっても良いと思いますし、皆さんにも伺いたいです。実際に本日、チャンピオンシップの審判をしていて思いましたが、交代が何人でもできる、1度交代した選手がもう1度グラウンドに戻ることができる等のところは、地区トップリーグに昇格した場合でも通用するのかどうかというところでは、どこかで話ができればぜひ私も参加して話しに加わってみたいです。

中塚：現在、後期での1部プレミアリーグでは地区トップリーグにレギュレーションを合わせていますが、前期については従来からのDUOリーグのレギュレーションにのっとって実施しています。

亀井：前期と後期で勝利の価値が異なると思います。前期で勝っていけば、後期において地区トップリーグに昇格できるチャンスが得られるというのは分かりますが、もう少し前期と後期で平等にならないかと思いました。それを解消するためには、1シーズン制はととても大切であると感じました。2シーズン制の過密日程で、ゆとりがなさすぎると感じています。

三ツ矢：試合結果報告についてですが、審判評価がなかったり、得点者がなかったり、BやCのチーム分け、「2部リーグ」だけでどのリーグのどのチームの試合結果なのか分かりにくく、実際に集計しにくいという声も聞かれます。事務局から提案して承認いただいたフォーマットの使用の徹底をお願いします。1試合1報告で済むにもかかわらず、2回、3回と報告しなおしていただくのは皆さんにとっても手間だと思いますのでよろしくお願いします。

小金丸：先ほど亀井先生がおっしゃった話に戻ります。1シーズン制に関して、私もシミュレーションをしていないのですが、2シーズン制の場合には都大会の日程を除いて前期の日程を組むことは不可能です。今回都江北がクローズアップされていますが、都江北は高体連の大会で勝ちあがっているところで、2シーズン制にも限界があると思います。話は戻りますが、都大会の日程を除いた中で前期の日程を組むことは不可能です。今まで問題なく実施できていたことが奇跡だと思います。地区トップリーグやTリーグと繋るなかで、ゆとりをもった期間でリーグ戦を行うことが望ましいと思います。3年生引退等もあり、代変わりもあります、それも含めてチーム力だと思います。

中塚：後は将来構想委員会の中で話し合っていきたいと思います。来年も今回と同じようなやり方を
する場合でも、リーグ戦最終日の設定は考え直さないといけないかもしれません。たとえば前期は
7月末日まで認めるなど。いずれにしても具体的なシミュレーションがないとこの話は進みません。

小金丸：もちろんシミュレーションも大事ですが、せっかく皆さんが集まっているので、各クラブの
代表者がどのように考えているのかだけでも話すことはできませんか。

中塚：では意見がある方お願いします。

宮坂：1 シーズン制の方が、日程にゆとりを持ってリーグ戦を行えると思います。2 シーズンでも 1
シーズンでもゆとりがあるからと言って、リーグ戦を後回しにはならないようにしなければいけ
ないと思います。なぜ 1 シーズンがいいのか、2 シーズンがよいのか、当事者意識を持たないと、ど
ちらの場合でも良い結果にはならないと思います。私は 1 シーズン制の方がよいと思います。

永井：私もリーグ戦をこなしていくのが大変であると感じていますし、私自身リーグ戦の日程を組ん
だ時もありますが 1 シーズン制の方がよいと思っています。

蓑輪：今回のスケジュール問題の当事者である都江北のクラブ代表としてですが、都大会に進出する
ことで、リーグ戦が 3 日分延期になりました。延期となった時には、都江北のグラウンドはあいて
います。このようにもったいないことも起こっているのです、都大会の日程を除いてリーグの日程を
決めていかないといけないと思います。2 シーズン制のメリットが感じられないので、1 シーズン制
でも良いと思います。

嶋野：私は 1 シーズン制でも 2 シーズン制でもどちらでもよいと思います。先ほど当事者意識という
話もありましたが、この会議でも発言をする人が限られています。小金丸先生の発言の意図も、他
のクラブの方々がどのように考えられているのかを聞きたかったのではないかと思います。当事者
意識については、ぜひ皆さんで共有していただきたいところです。

長山：私はどちらがよいか決めかねています。2 シーズン制とした上で、リーグ最終戦の日程を変更
できるのであれば、高体連の試合との兼ね合いでもリーグ戦を実施できると思います。しかし、で
きないのであれば、1 シーズン制としてゆとりを持ってリーグ戦を実施した方がよいと思います。
生徒についてはしっかりと準備をしたうえで試合に臨ませてあげたいので、試合消化に追われたり、
試合の順番で勝敗が左右されたりしてしまうのは違うと思います。

亀井：2 シーズン制のメリットもあり、1 シーズン制のメリットもあると思います。今までの意見を聞
くと、1 シーズン制の方がメリットは大きいと思いますが、日程決めについては大変だと思います
し、弊害はあると思います。ただこのような議論が出てきたのは、部員数が増えて B チーム、C チ
ームを出すクラブが増えたからだと思います。1 シーズン制にするのは良いと思いますが、様々な
状況を考えていかないといけないと思います。

丹羽：トップチームが T リーグにいて、そのチームの B チームが DUO2 部リーグに参加するのであれ
ば 2 シーズン制がよいです。多くの試合を組めるので。ですが、トップチームが DUO1 部リーグに
参加している場合は大変であると思います。高体連の大会が重要であるので、そこにウエイトを置
くのは当然だと思います。高体連の大会を犠牲にしてまでリーグ戦の方をなんとかしようとは思わ

ないと思います。両方の問題があるので、どちらがよいとは言い切れないです。

山中：1シーズン制のデメリットは何かありますか。

中塚：試合数が減るのではないのでしょうか。ゆとりと言っていることの裏返しです。また期間が変わってしまうと、3年生の代替わりなどでチームが変わってしまう可能性があります。その点は小金丸先生がおっしゃったように、そこも含めてのクラブ力であるという考えもあります。

山中：了解しました。

中塚：とにかく具体的なシミュレーションがほしいです。それがないと、この話の続きができません。これだけ1シーズン制を支持する方がいるのであれば、どなたかシミュレーションを作っていただきたい。それをもとに、将来構想委員会などで話を進めていきたいです。

小金丸：では私がやります。ですが、皆さんのご協力もお願いします。

中塚：9月中には1度、将来構想委員会において、1シーズン制について議論したいと思います。

4) DUO リーグの役割分担について

中塚：別の話ですが、DUO リーグ役割分担について、今年度で任期満了に伴い、役割変更をします。チェアマンについても、以前から述べているように、今季限りで交代します。後任チェアマンの選考については、理事会にお任せいただけないでしょうか。

→承認

中塚：次回の会議では、次のチェアマンをお知らせしたいと思います。最後に何か全体を通してありますか。

岸(弘)：先日行われたチャリティーマッチについてです。前回のDUO リーグ会議、メーリングリストなどでもご連絡いたしました。当日参加した高校生は筑波大附の生徒だけでした。正直もう少し参加があるかと期待はしました。チャリティーマッチについては、チームではなく個人の参加でもかまわないという形で告知しました。しかし残念ながら個人の参加に至る前に、先生が伝えてなければ、伝わっていかないというのが現状であったのかと思います。そういうところも含め、DOU リーガーへの情報配信の話も出ました。

昨年私がボランティアに行くときには、高校生にメールでお誘いをしたところ、8人の高校生が手を挙げてくれました。そう思うと高校生も東日本大震災について何とかしなくてはどの思いがあったと思います。もう少し、サッカー以外に関しても興味を持って頂いて、せめて生徒に伝えるだけでも伝えて頂きたいと思います。ホームページのお知らせ欄で告知できるのであればしたいです。これをやるだけでかなりの労力と様々なサポートがありました。何人かの先生からは寄付をいただいたり、筑波大附では会場提供してくれたり、生徒が寄付してくれたりしていました。しかしそれ以外のDUOクラブについては協力的ではなかったと思います。

実際に被災した子供たちは3日間おにぎり一個で暮らしていたり、寒い中段ボール1個で暮らしたりしてきた子どもたちです。そういう子どもたちと接する機会を持たせても良かったのではないかと思います。

中塚：最後に各クラブ代表して1名ずつ高校生から一言お願いします。

井上：今日、会議に出席して、僕たちがプレーできるのは、多くの方々の協力があるからだということが分かりました。選手たちは日々感謝の気持ちをプレーで表わさないといけないと思いました。

鎌田：選手として DUO リーグに関わるのが、高校生では多いと思います。筑波大附は、なるべく会議に出るようにしていますが、選手としてだけでなく、運営面の部分も含め、自分でリーグをつくっていくという感覚を持つためです。筑波大附だけでなく、他の学校でもそのような取り組みをしていってほしいです。

議事録作成：三ツ矢

確認・一部修正：中塚義実